

WORK VS XV

× MOONTECH BMW M4

ホイール作りの伝統を背負って
15交点メッシュ、リボーン!

メッシュというホイールデザインは、スポークやディッシュホイールに大きな違いは出せない。

それだけに、性能や仕上がりがより注目されることになる。

ワークの最新モデル“VS XV”は、クラシックテイストのメッシュパターンが魅力的だ。

問●ワーク 西日本TEL.06・6746・2859 中日本TEL.052・777・4512 東日本TEL.048・688・755 www.work-wheels.co.jp

撮影協力●ムーンテック TEL.0270・61・7495 moontech.jp/#aboutWrap

撮影●木村博道 文●永田トモオ



SPEC
ホイール
WORK VS XV
フロント 9.5J×20インチ インセット9
リア 11J×20インチ インセット28
タイヤ
TOYO PROXES SPORT
フロント 255/30
リア 285/30
サスペンション
KW Ver.3
マフラー
MOONECHオリジナルエキゾースト



シルキーリッチシルバー



プリリアントシルバーブラック



マットダークガンメタ

↑サイズラインアップは18インチから21インチまで。21インチはステップリムのみ。18インチはリバーシブルのみとなる。センターディスクの他にリムカラーやフィニッシュのアレンジも可能だ



↑センターディスクの立体感は昔の多交点メッシュにはなかったモダンな特徴。光の入り具合でホイールの表情がいかようにも変化する

↓ホイールはタイヤがフェンダーぎりぎりに入るツライチ装着。下がるだけ下げたという車高調サスペンションはKWのタイプ3



ムーンテック

住所:群馬県伊勢崎市境下武士1516-1
TEL.0270・61・7495 moonotech.jp/#aboutWrap
営業:10:00~19:00 休日:毎週月、第三日曜、イベント日

↑ムーンテックは、国内外のショーへの参加で知られるカスタムショップ。「見せることを意識したツライチです。サスはKWのバージョン3を限界まで下げます」と田口代表。「ツライチは名刺一枚」と普賢気なところも見える

は、いつでも最新技術をメッシュデザインに注ぎ込んできたわけだ。そして、1980年代のクラシックなスタイルアップが注目される今、多交点メッシュもリバイバルしつつある。ワークがVSブランドに新しくラインアップしたXVは、クラシックな15交点メッシュパターンを採用した本格3ピースだ。XVのデザインのポイントは、15交点のメッシュを彩る、モダンなディテールアップ。ディスクセンター部のコンケイブと、リムへとしなるように落とし込まれるスポークラインは、抜群の立体感でスポークを浮き立たせている。多交点を綺麗に整理して見せるデザインの巧みさは、これまでいくつもの多交点メッシュデザインを送り出してきた、ワークのような老舗ホイールメーカーならではのものだ。

さて、3ピースのメッシュとなれば、低めの車高にフェンダーツライチ装着は欠かせない要件だ。このBMW・M4の場合は、車高調サスキットで限界まで下げたところで、ぎりぎりのツライチになるようにタイヤとホイールがセットされている。車高とフェンダー、タイヤ&ホイールのバランスを追求するツライチ装着は、ムカシから変わらないスタイルアップの醍醐味だ。

装着ホイールはシンプルに深さを見せる、伝統のリバーシブルだが、20インチと19インチモデルには段付きのステップリムが用意されるから、もっとコンサバなセダンやクーペのオーナーなら、ソチラを選んでさらなるクラシックテイストを楽しむのもいだろう。

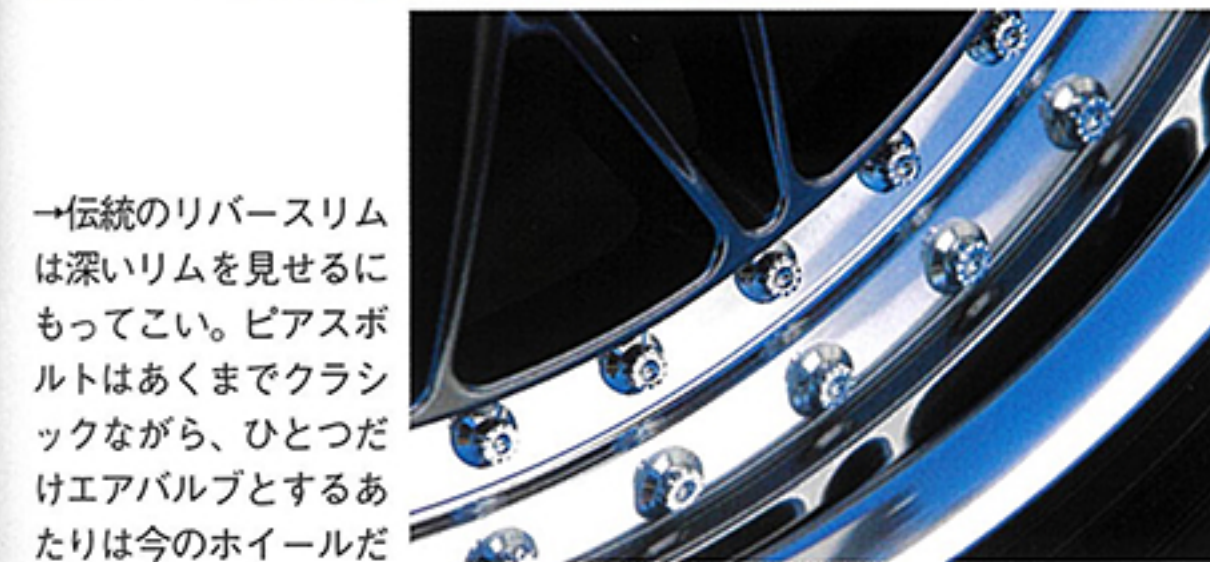
VS VX
7J×18インチ ¥72,000+税~
12J×21インチ ¥128,000+税



WORK VS VX × MOONTECH BMW M4 クラシックなメッシュパターンを 最新の解釈でディテールアップ



↑センター部の立体感やリムへのスポークの落とし込みは、80年代には表現しきれなかったもの。クラシックなメッシュパターンを見事にアップデートさせている



↑伝統のリバーシブルは深いリムを見せるにもってこい。ピアスポルトはあくまでクラシックながら、ひとつだけエアバルブとするあたりは今のホイールだ



車高調で極めたツライチはフェンダーの隙間、名刺一枚。スポークホイールやディッシュホイールに較べて、デザインの発展性が限られるメッシュホイールにあって、スポークの交点の数は大きなデザイン要素だ。アルミホイール史的にいうと、メッシュパターンは、世代を重ねるごとに交点の数を減らしてきた。何故かといえば、その方がスポーティで機能的だから——ホイールメーカー



GNOSIS AE201

↑グノーシスらしい直線基調でありながら、スポークの根元や先端左右の水かきなど、曲線をさりげなく融合したのが特徴。フェイスはコンケイブ

GNOSIS GSR1

↑初代モデル、GS1のバランス感を継承した力強い10本スポークが特徴。すべてが直線基調となるためビレット感が強く、シンプルながら激精悍



GNOSIS IS105

↑グノーシスのモノブロックモデル。エッジ感際立つ変則スポークを、大胆にひねった躍動の意匠は必見。リムオーバー形状で迫りも満点なのだ

WORK

GNOSIS AE201/GSR1/IS105

ユーロで精悍なグノーシスから 魅力あふれる3作品が新登場

問◎ワーク 西日本 TEL.06・6746・2859 中日本 TEL.052・777・4512
東日本 TEL.048・688・755 www.work-wheels.co.jp
文◎酒井賢次

輸入車をターゲットに、アメ鍛風のシャープなビレット感をハイレベルなジャパン製造技術で再現したユーロテイストブランド、グノーシス。そんな彼らが2021年モデルとして一挙に3作品を送り込んできた。

GSR1はグノーシスの初代モデル、GS1のデザインを現代的にリビルドしたモデル。力強い10本スポークにアンダーカットを組み合わせたフェイスをコンケイブさせたその姿はいかにもグノーシス的で躍動的だ。

AE201は最近の複雑なデザイン鍛造ビレットモデルをモチーフに、直線と曲線とを融合させた美麗モデル。ディスク外周に山型断面を与えて立体感を表現したり、リップを多重に積層させたシンプルながらも独創的なスポーク形状を採用と、魅せずカラにこだわっているのが特徴だ。

IS105は2021年モデルの中でも、特にトレンドを意識したフイニッシュ。マルチピースブランドであるグノーシスとしてはレアな1ピース構造で、1ピースらしい伸びやかでアメ鍛感の強いスポークが魅力。直線スポークとY字スポークとを融合させたトリッキーな造形で、しかもそのスポークを大胆にひねっているというのも斬新。リムオーバー形状だからインチアップ効果も高く、みなぎる疾走感3作の中でも格別だ。

いずれのモデルも輸入車用サイズが豊富で、鍛造ちつくな色味が設定されているのもポイント。上級スポーツを気取りたいなら、適役である。

アメ鍛テイストにあふれた
高品質なジャパン製造モデル。